



114  
A 3897



三月八日 用弁方公 土中河漢所方有金の面官

北紙 信濃川分水大河津掘刻儀有先般音柵

樽少佐柳お西ま一人下向日分より此方河系

川の至國情一定の有無を教探出の成否如何

堤防の土更件より下より上連之趣を承知別

たききり上候

一國情一定の儀に懸り河漢の分水下河共通河

天正十一年四月  
隈侯御郵書

2587



人情の私の善と惡の嘲と忠と名と唱い  
て下之大事と人順逆と不并儀と有之況と  
事件對あり口と或利徳走り所謂於人  
侍り者と可有之又其益比心在望視傍觀  
却る浮説流云と上讓り事務可有此儀

朝廷の御威徳と心とやと至五と人情遍一  
致の儀と至也云彼堂の紅と在事事件進延

はれと民望を益不徳有並言の事と保縣  
預ま村の用赤抵と者言の素が二國と憂  
之ッ精カ抽一人と至氣守流る日と當分  
四方又無の振探あり可仕名速と普信の  
下と正邪曲直の儀と紅問多度と時言  
柄其益と又其私と流ると輩の實と可慮と  
至る事海の既と瀋縣の員と救助と及堤防の

又て近年水干らば堤切に損失如き者有る  
を得其御村に得失一國に於危瞭然分明  
は儀心存ん左同く地所は高下多水害  
に厚薄有るを得共同信濃川洪水有るは  
いふ不安年堤防始東山奔走人かき  
と一般之儀有長岡上小千谷迄ありて舊  
幕府の時年一國没普請をかきとるを得

堤防は不行在早竟信濃川數十里下流滞り  
りね左流り上流中一村田園之地は歳々儀  
往々有之今度分水至り此は小千谷辺堤  
自ら其潤澤と信ん儀心存ん假令一郷に  
拾里隔ると堤通危難に命地は高下水害  
と厚薄と名論殺す人夫加勢救合あり  
強弱に村の力不有る其曾四村に言相互









ふか河船の舟夫等一丁彼等々耕地見  
就之魚々之と眼前なる之民命之園之儀  
馬の山汲水の上細々之葉之極其極臨之  
衆識之とて一度也

右條件聊之借借事之古安好前之誠  
の存好め之と建之仁事之別多之由患困者  
之及之之籍之之概之之官之極之極之極

河津法初成下之重度之希希候以上

明治三年三月

越後右河津の番付  
用之相掛

越後右河津番付下

河津番付下

田津番付下

土味  
河津没可



